

5. 道を「つかい・つくり・まもる」の方向性

■現状、課題と導く方向性

- これまでに整理した「現状・課題」、「将来像」、「市民ニーズ」を踏まえ、取り組むべき「みちづくりの方向性」を示します。

◆ものづくり産業、観光、都市活動の支援(つかい・つくり)

①都市機能の維持(P4 ◆人口減少・高齢化)

<現状・課題>

- 人口減少・高齢化や人口の分散化が進行
- 都市の空洞化や魅力低下による人口流出が懸念されるため、道路で隣接拠点を相互に補完する機能を高め、病院等の都市施設を維持していくことが必要
- 上位計画等に基づくコンパクトな拠点都市形成が図られる中で、既存の高速道路を“かしこくつかい”、主要都市から市域内の生活拠点等を効率的に結ぶ、メリハリのある“みちづくり”が必要

<将来像等>

- コンパクトでメリハリの効いたまちづくり
- 拠点ネットワーク型都市構造

<みちづくりの方向性>

- 病院等の都市施設の相互補完を行い、メリハリの効いた住みよいまちとするために、道路及び公共交通により拠点間ネットワークの強化が必要

②地元産業力の強化(P5,6,7,8)

<現状・課題(産業)>

- 製造品出荷額や農業産出額は、近年横ばい
- 災害に強い地域である都田地区に企業を誘致
- みかん、うなぎ、天竜材等の特産品を多く所有
- 企業立地や各種産業の競争力強化に資する道路の再編が課題

<現状・課題(観光)>

- 浜名湖、館山寺温泉、遠州灘等の多様な観光資源を保有
- 新東名高速道路の開通により観光圏が拡大し、今後は、三遠南信自動車道やリニア中央新幹線との連携により、南信州地域や北陸地域との観光面のポテンシャル拡大が期待
- 上記の高速道路ネットワークを“かしこくつかう”ため、市内の観光拠点間および高速道路ICとの連絡性を高めることが必要

<将来像等>

- 拠点ネットワーク型都市構造
- スマートICの設置や幹線道路の整備

<みちづくりの方向性>

- 高速道路ICへのアクセス性・利便性を向上(産業・観光拠点と高速道路ICとの連絡性向上)し、活力ある都市の実現
- 三遠南信自動車道による南信州地域とのつながりの拡大(リニア中央新幹線)
- (仮称)浜松三ヶ日・豊橋道路による三河地域との連携
- 国道1号の機能強化

③市中心部の渋滞緩和(P9,10 ■浜松市の交通現況、特性)

<現状・課題>

- 政令指定都市の中で1世帯あたりの自動車保有台数が最も多く、自動車の分担率も増加傾向
- 道路改良率は他の政令指定都市より低い状況
- 道路混雑の解消に伴うバスの定時性確保や鉄道駅へのアクセス性向上等の一体的な取組が必要
- 中心部周辺で旅行速度が低く、主要渋滞箇所指定されている等、自動車交通の集中による市中心部の渋滞が課題

<将来像等>

- 拠点ネットワーク型都市構造を支える「3つの高規格幹線道路」、「5つの環状道路」、「11の放射道路」からなる主要幹線道路で構成

役割

- 高規格幹線道路…市外の都市機能集積地や富士山静岡空港、御前崎港などの国内外へのゲートウェイへのアクセス向上等
- 環状道路…通過交通を分散させ都心の自動車交通の整流化を図る、都心に向かう公共交通の定時性・速達性を向上させる等
- 放射道路…都心と拠点間の連携を向上させる、都心を中心に拠点、IC、観光地、商工業集積地などの連携強化等

<市民ニーズ>

- 「渋滞のない道路の整備」のニーズが最多(つかい・つくり)

<みちづくりの方向性>

- 環状・放射道路等の整備による幹線道路ネットワークの構築
- 交差点改良や信号改善等によるボトルネック解消
- 自動車から公共交通への転換による交通需要の削減
- 幹線道路の円滑化により、幹線道路の事故及び生活道路への流入を抑制

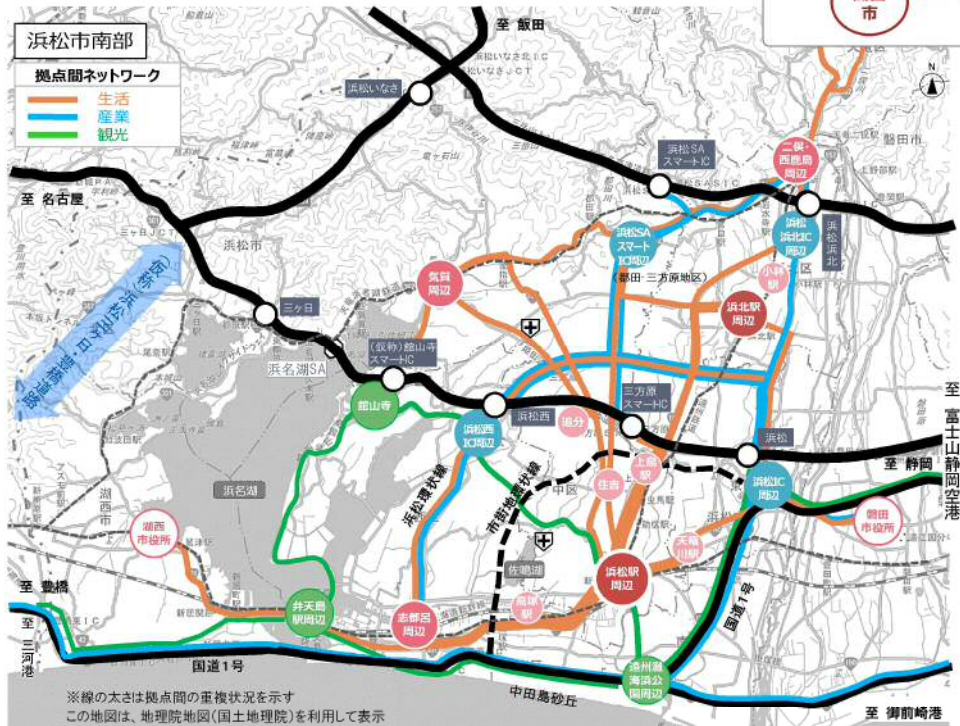
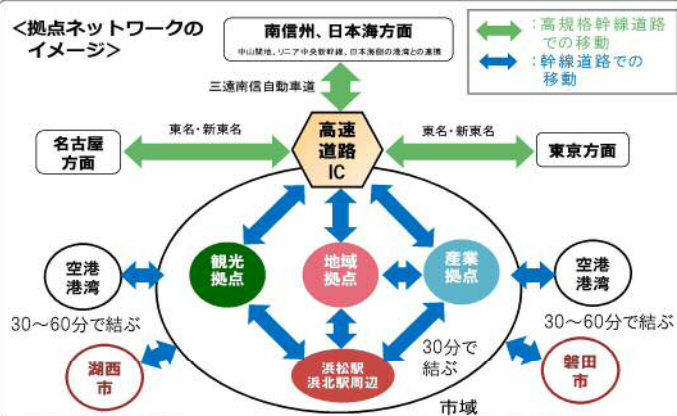
「拠点間を円滑に移動」することで、交流人口の拡大や地元産業の強化等につながり、住みよいまちをつくる

5. 道を「つかい・つくり・まもる」の方向性

◆「拠点間を円滑に移動することで、交流人口の拡大や地元産業の強化等につながり、住みよいまちをつくる」ためのみちづくりは、以下のイメージとなります。

＜本計画における拠点間ネットワークの設定＞

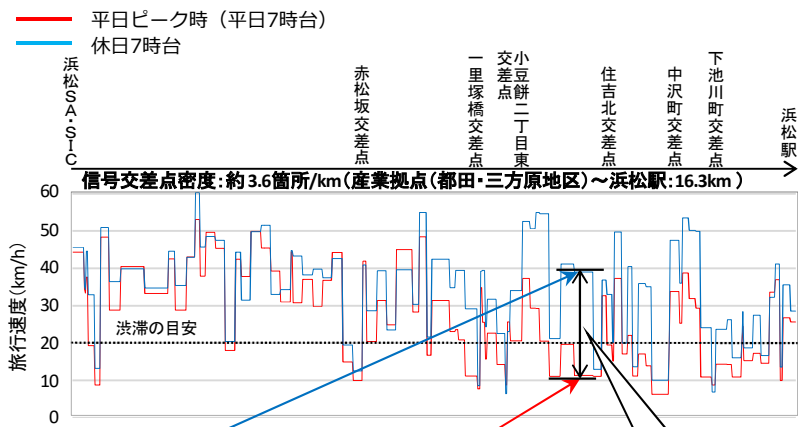
- 上位計画等で位置付けた拠点(生活・産業・観光)の中で、関連する拠点間を幹線道路で結びます。設定された拠点ネットワークは道路網の骨格となるものです。(下図参照)
- 拠点間の移動目標時間を30分として考えます。
※市中心部への自動車交通集中の分散化を図るため、環状道路(市街地環状線等)を設定します。



【拠点間ネットワークの整備等の考え方例（浜松SAスマートIC周辺と浜松駅周辺との連携）】

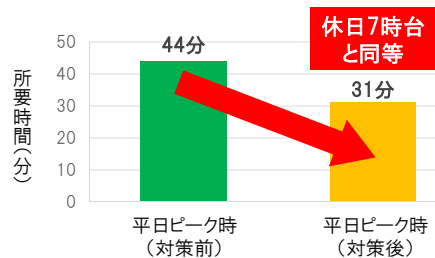
- 浜松SAスマートIC周辺(例：都田・三方原地区)にとって、新幹線や東海道本線が乗り入れる浜松駅との結びつきは、企業活動を行う上で重要です。
- 当該区間では、平日ピーク時の所要時間44分と比較して休日7時台では31分と概ね目標時間である30分で走行できています。このため、平日のピーク時においても休日7時台と同等な走行を確保していくものです。目標時間に達するよう対策を検討します。

＜浜松SAスマートIC周辺→浜松駅周辺の間における旅行速度の現状＞



交差点改良や道路拡幅、バイパス道路等の対策を実施(具体的対策は別途検討)

◆休日7時台と同等なサービスレベルの確保 (浜松SAスマートIC周辺→浜松駅周辺の間：16.3km)



休日の交通量が少ない時間帯では、円滑に走行できている

平日のピーク時において、信号交差点で旅行速度が20km/h未満まで低下

この差の原因と対策を検討

移動時間の短縮により利便性が向上し、市民生活や産業活力、観光交流が活発になります。また、生活道路への通過車両の進入が減少し安全性が高まります。

5. 道を「つかい・つくり・まもる」の方向性

【拠点間ネットワークの連携強化による効果例（南信州・北遠地域～浜松市街地との連携）】

三遠南信自動車道の整備により、以下の効果が期待されます。

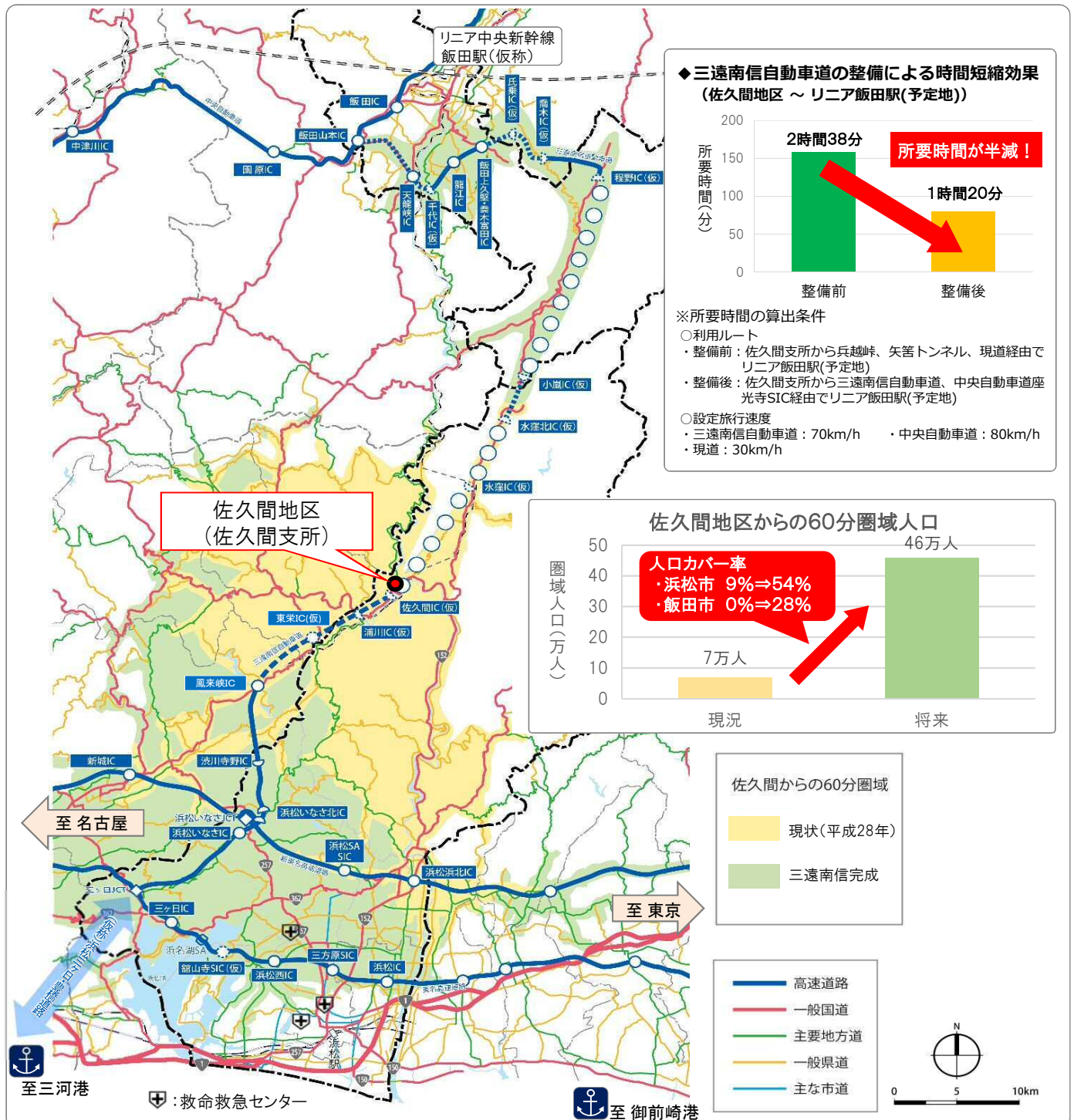
① 広域的な拠点間の連携

- 災害時においては、長野方面や日本海側の主要拠点との連携により、円滑な救援活動や緊急支援物資の輸送等が期待されます。
- 観光面においては、リニア中央新幹線飯田駅(仮称)への時間短縮による浜名湖等との連絡や、インバウンド等の交流人口の拡大が期待されます。
- また、さらに(仮称)浜松三ヶ日・豊橋道路の実現により、三河地域との交流促進が期待されます。

② 市内の拠点間の連携

- 南信州・北遠地域から浜松市街地への移動時間が大幅に短縮し、天竜材の輸送効率化や観光周遊性の向上など、産業・観光の活性化が期待されます。
- 北遠地域の60分移動圏域が拡大することにより、浜松市街地への通勤や通院などの生活利便性向上が期待されます。
- 南信州地域からの60分圏域人口が大幅に向上することで、南信州地域と浜松市街地との交流促進が期待されます。

＜南信州・北遠地域（代表地点：佐久間地区）からの60分圏域の拡大効果＞



◆地域のにぎわい、道路の魅力の向上(つかい・つくり)

④都心部や観光地の活性化(P7,8 ■浜名湖観光圏のブランド構築)

<将来像等>

- ・ 総合計画における、創造都市・浜松の玄関口にふさわしいまちなかの創出に資する取組:「歩行者や自転車に優しいまちなかの形成」、「中心市街地活性化」の実現
- ・ 浜名湖観光圏整備計画の目的である、交流人口の増加による地域経済活性化の実現
- ・ 「自転車走行空間の整備」の推進

<市民ニーズ>

- ・ 「自転車が安全・快適に走行できる整備」に多くのニーズ(つかい・つくり)

<みちづくりの方向性>

- ・ わかりやすい案内標識等の整備
- ・ 道の駅等の拠点を活用したにぎわいの創出や、中山間地における交通手段の多様性の確保
- ・ 景観にやさしく、調和を図った道路整備
- ・ 自転車や公共交通等の交通手段が利用しやすい道路環境の整備

⑤人々が行き交う“みちづくり”(P7,8 ■浜名湖観光圏のブランド構築)

<将来像等>

- ・ 都市計画マスタープランにおける分野別の方針「景観」の基本方針:「多様な地域景観の創出」の実現
- ・ 第2次浜松市ユニバーサルデザイン計画における基本施策「みんなにやさしい道づくり」として、「道路施設のユニバーサルデザイン化」

<市民ニーズ>

- ・ 「歩行者が安全・快適に通行できる整備」に多くのニーズ(つかい・つくり)

<みちづくりの方向性>

- ・ 誰もが移動しやすい“みちづくり”のためユニバーサルデザイン化を推進

景観や回遊性、ユニバーサルデザインの推進



浜名湖周遊自転車道



UDブロック

UDブロックによる整備



自転車駐輪場の整備
(助信駅東口 平成25年12月完成)



橋上駅舎、自由通路の整備
(JR天竜川駅 平成29年9月供用)

◆市民にとって安全・安心な道路の確保(まもる)

⑥交通安全の確保(P11,12 ■浜松市の交通事故現況、特性)

<現状・課題>

- ・人口10万人あたりの人身交通事故件数は、政令指定都市20都市中、平成28年まで8年連続ワースト1
- ・生活道路では、見通しの悪い交差点等で出会い頭事故や人对車両事故が多く発生していることから、生活道路への抜け道利用や通過車両の速度超過が主な事故原因
- ・通学路合同点検等、学校と協働した継続的な取り組みにより、いかに子どもを“まもる”かが課題

<将来像等>

- ・浜松市交通安全計画の基本理念である人命尊重の理念等より、道路交通事故のない社会を志向

<市民ニーズ>

- ・「歩行者・自転車が安全・快適に通行・走行できる整備」に多くのニーズ(まもる)

<みちづくりの方向性>

- ・ゾーン30地区等の生活道路の自動車速度を低下させ、歩行者・自転車の安全を確保するため、狭く、ハンプ等の生活道路対策や信号機のない交差点の安全対策(カラー化、コンパクト化、ラウンドアバウトなど)を推進
- ・事故多発交差点対策(事故危険箇所対策等)の推進
- ・浜松市通学路交通安全プログラムに基づき、通学路の安全対策を推進

通学路等の生活道路における安全・安心の確保



ゾーン30内における速度抑制対策(ビッグデータの活用)



対策前(平成26年)



対策後(平成28年4月)

浜松市通学路交通安全プログラムに基づく通学路の安全対策

◆大規模災害等への備え(まもる)

⑦甚大な被害が想定される道路施設(P.13 ■浜松市の災害に関する現状、特性)

<現状・課題>

- 大きな揺れ(震度7)と津波を伴う南海トラフ巨大地震の発生確率が高く想定
- 大雨時には、国道152号等の主要な道路の通行規制が頻繁に発生(雨量規制区間)
- 大規模災害が発生した際は、山間部や津波浸水域において、ネットワークの途絶による孤立集落の発生が想定
- 山間部においては、高次医療施設が無いことや、災害時の支援等の観点から、緊急時のネットワーク確保が重要

<将来像等>

- 橋梁耐震化等の公共インフラのハード整備を進め、自然災害被害を低減化
- 無電柱化により、災害時の迅速な道路啓開を可能にする

<市民ニーズ>

- 「地震や豪雨等の災害時の通行機能の確保」に多くのニーズ(まもる)

<みちづくりの方向性>

- 災害時・緊急時のネットワーク確保(現道の保全や三遠南信自動車道等広域幹線道路の利用)

災害時・緊急時の通行機能の確保

災害時・緊急時のネットワーク確保の方向性

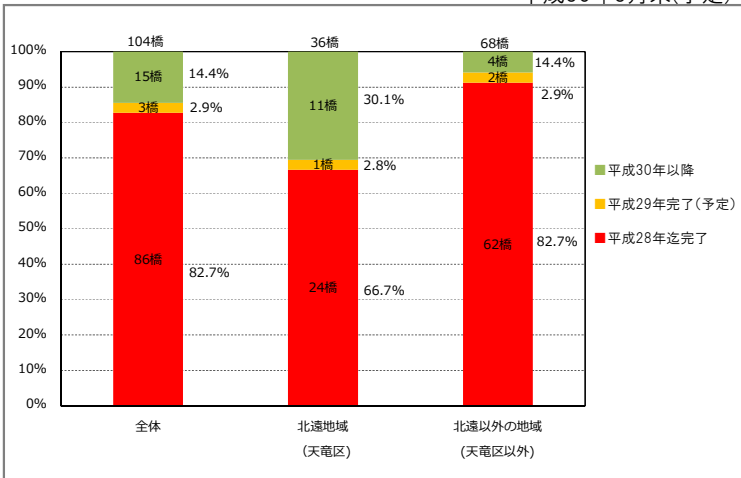
- 緊急輸送路上に耐震補強対象橋梁と大雨時における雨量規制区間が存在
- 橋梁の耐震化を行うとともに、雨量規制区間において道路斜面对策を実施することで、災害に強い道路ネットワークを確保
- その他、市街地においては、無電柱化による地震時の倒壊防止対策の必要性



道路斜面对策

<橋梁の耐震化状況(104橋)>

平成30年3月末(予定)



無電柱化による地震時の倒壊防止

◆道路の効率的・効果的なメンテナンス(まもる)

⑧膨大な道路施設の維持管理(P.14 ■浜松市の維持管理に関する現状、特性)

<現状・課題>

- ・ 政令指定都市の中で最も多い道路管理延長を有しており、橋梁・トンネルも多くの施設数を保有
- ・ 法定点検義務化により、多くの施設を短時間で点検・修繕するとともに、5年サイクルで繰り返して実施する必要があることから、厳しい財政下でこれらを行っていくことが課題
- ・ 身近な道路の維持管理に対し、市民から毎年多くの要望

<将来像等>

- ・ 道路施設の適切な維持管理を行い、長寿命化を推進

<市民ニーズ>

- ・ 道路の新設、拡幅等(つかい・つくり)よりも、維持管理・更新等(まもる)の方を重視すべきという意見が多数

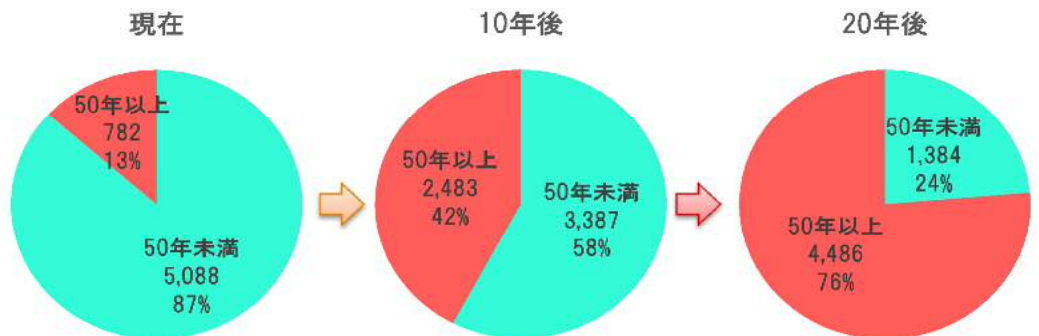
<みちづくりの方向性>

- ・ 適切な維持管理を行うため、長寿命化を推進
- ・ 身近な道路の維持管理を推進
- ・ 道路の維持管理・更新に関するICT等の新技術の導入を推進

道路施設の長寿命化等、道路の適正な維持管理

<道路橋の建設年別分布>

※建設年不明(13橋)を除く



資料：浜松市道路橋長寿命化計画(平成29年3月)



■ 建設道路橋数 (橋長15m以上) ■ 建設道路橋数 (橋長15m未満) — 累積道路橋数

資料：浜松市道路橋長寿命化計画(平成29年3月)

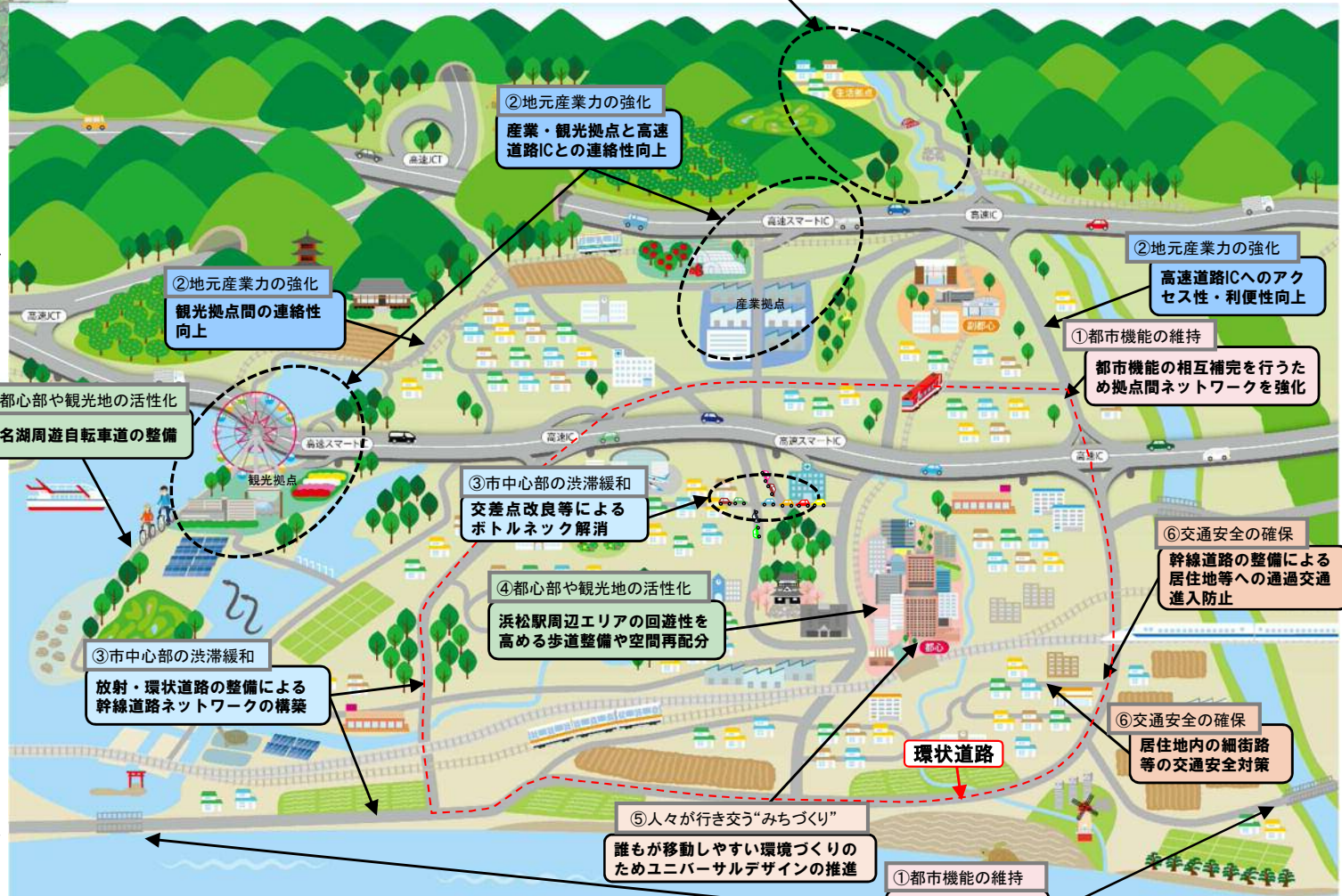
■道を「つかい・つくり・まもる」の方向性のイメージ

・ 19～25ページで設定した「みちづくりの方向性」について、本市のイメージ図上に示します。

※番号はP19～25の番号と同一です。

①都市機能の維持	都市機能の相互補完を確保
②地元産業力の強化	南信州・日本海側との連携拡大
⑦甚大な被害が想定される道路施設	災害時・緊急時のネットワーク確保
⑧膨大な道路施設の維持管理	適切な維持管理を行うため長寿命化を推進

【市街地部の拡大イメージ】



【浜松市全域】

市域全体のみちづくりの方向性

- 幹線道路の円滑な移動を確保
- 地域景観と調和させ、心地よい景観を創出
- 生活道路や通学路の交通安全を確保
- 身近な道路の維持管理

※ イメージ図のため、全てのインフラ施設を表示したものではありません。